

平成21年12月28日

各位

上場会社名 日本エンタープライズ株式会社
 代表者 代表取締役社長 植田勝典
 (コード番号 4829)
 問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 田中勝
 (TEL 03-5774-5730)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年7月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位：百万円)

平成22年5月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年6月1日～平成22年5月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,578	327	350	200	530.50
今回発表予想(B)	2,310	205	225	110	291.78
増減額(B-A)	△268	△122	△125	△90	
増減率(%)	△10.4	△37.3	△35.7	△45.0	
(ご参考) 前期実績 (平成21年5月期)	2,475	292	317	175	465.81

平成22年5月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年6月1日～平成22年5月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,241	294	315	180	477.45
今回発表予想(B)	2,000	180	200	85	225.46
増減額(B-A)	△241	△114	△115	△95	
増減率(%)	△10.8	△38.8	△36.5	△52.8	
(ご参考) 前期実績 (平成21年5月期)	2,240	330	355	135	359.06

修正の理由

当会計年度における業績につきましては、連結・個別とも、下期を通じて業績が回復する計画を立てておりましたが、本格的な回復時期が来期以降にシフトすることから、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも、当初の計画を下回る見込みであります。

売上高の修正につきましては、コンテンツサービスにおいて、デコメールをはじめとした「メール・カスタムサイト」が下期を通じ増加するものの、「音楽サイト」の拡販には未だ時間を要し、「ゲームサイト」の減少が継続することが見込まれること、また、ソリューションにおいては、受託サイトの収入減、新規案件の獲得不足が見込まれることが主たる要因となり、当初予想を下回る見込みであります。

今後につきましては、成熟カテゴリとなった「着うたサイト」において、従来より実施してきた会員数の下げ止め対策の効果が浸透し下期に増加トレンドへ反転させる見込みであること、「着うたフルサイト」においては、オリジナルアーティストによる独自作品のCD制作を試み、サイトへの誘引力向上に努めていくこと、「メール・カスタムサイト」においては、「デコデコメール」をはじめとした主力サイトのプロモーションを強化し、季節需要を確実に取り込んでいくとともに、キャラクターの強化、他社とのタイアップ促進等によりブランド力を高めてまいります。「ゲームサイト」においては、来期からの反転を狙い、主力サイトのリニューアルを順次行うとともに、iPhone向けアプリの投入等新たな顧客層の獲得を目指してまいります。

ソリューションにおいては、受注動向により売上高は変動するものの、携帯電話の普及率の高さと常に「携帯」される特性から、企業における携帯電話を活用したコンシューマー向けのビジネス展開は、引き続き注目される環境下、営業力を強化し、提供コンテンツの権利を自社で保有する当社独自のビジネスモデルを最大限発揮することで、企業向けソリューション（モバイルサイト構築・運用業務、ユーザーサポート業務、デバッグ業務、サーバ保守管理業務等）を積極的に展開し、確実に受注へとつなげてまいります。

海外においては、中国で主力の2G・2.5G※向けのコンテンツ配信を積極的に展開しつつ、3G※先進国の日系企業の強みを活かし、本格的な普及が目前となった3G※コンテンツ市場へ向けた取り組みを強化してまいります。

営業利益・経常利益につきましては、コスト削減を促進しているものの、売上高が計画を下回ることが影響し、当初予想を下回る見込みであります。

今後につきましては、売上原価においては、コンテンツ制作・モバイルサイト構築・運用の内製化促進をはじめ、各種作業工程を見直し、原価率改善を図ってまいります。また、各種販管費を削減する一方で、コンテンツサービスの年末年始の季節需要に向けたプロモーション費用の投下等、今後の本格的な回復に向けた投資を積極的に進めてまいります。

当期純利益につきましては、上述の理由の他、課税所得の増加により繰延税金資産の負担割合が増加したため、当初の計画を下回る見込みであります。

以上の要因により、平成22年5月期の通期の連結業績見通しにつきましては、売上高2,310百万円（前期比6.7%減）、営業利益205百万円（前期比29.9%減）、経常利益225百万円（前期比29.2%減）、当期純利益110百万円（前期比37.4%減）、通期の個別業績見通しにつきましては、売上高2,000百万円（前期比10.7%減）、営業利益180百万円（前期比45.5%減）、経常利益200百万円（前期比43.8%減）、当期純利益85百万円（前期比37.2%減）を見込んでおります。

※2G・2.5G・3G・・・第2世代、第2.5世代、第3世代の携帯電話方式の総称。

数字が大きくなるほど、データ通信や機能が高まり、リッチコンテンツを配信することが可能となる。

（注）上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は様々な要因により、予想数値と異なる場合があります。

以 上